

語法研究：actually を考える

文学研究科英文学専攻博士後期課程満期退学

木内 修

0. はじめに

何のために英語の辞書を引くのか。英文を書くために、当該の語のルールを知るためか、英文を読む際に、その語のイメージを掴むためなのか。昔から大は小を兼ねるといふ。ある面、辞書も大きければ大きいほど詳細な情報を盛り込むことが可能になる。この30年くらいは、どのような使い方が可能なのかだけでなく、どのような使い方は出来ないのかという非文情報を詳細に載せるようになってきている。

語のイメージを掴むためには全体像の把握が必要不可欠である。すると、その語の定義や用例が何十行や、ときに何百行に亘った場合、辞書をチェックリストのように脇に置いて、今問題になっている英語の文脈に合わせながら、ひとつひとつを照合しなければならない事態となる。辞書の定義を眺めて、その語を成立させている必要条件を見抜くためにも、信頼できる辞書の簡潔な定義項を利用するのが第一歩である。

定義の定義をしなければならない。「定義する」の英語は define。これは de と fine で構成されていて、de は強意の接頭辞で、fine は「終わらせる」から転じて「限界を定める」という境界線をはっきりさせるとの意である。つまり、定義とは、それとそれ以外をはっきり切り分けることである。「椅子は座るための家具」という定義は「座るため」という目的を種差（他の種と区別できる特徴）と「家具」という類概念の組み合わせで、他のものとはっきり境界線を引き、差別化をすることを意図したものである。

つまり、この定義の考え方を意識して、その辞書の定義項を読み込むことが肝要である。ただし、情報が少なすぎると本質に迫ることが出来ないので注意が必要である。また、上級者にとっては、豊富な情報は活用可能であるが、初級者にとっては、その豊富な情報がかえって、何が中心で、何が周辺かを取り違えるといった可能性が出てくるため、活用が困難となり、当該の語の本質を掴むことはなかなか出来ない。

英語辞典の老舗である Oxford からは、二十巻本の OED と呼ばれるものをはじめ、OED を二巻本に内容を圧縮した SOD がある。これは英単語の戸籍簿的な機能を果たしているものであり、その単語のどの意味が、いつ、どの作品で使用されたのかを、可能な限り明示し

ているものである。よって、語義の順番が歴史順に載せられていて、頻繁に使用はされるものの、その語義が現代に成立したものは、最後の方に記載されている。そして一卷本で使用頻度順に語義が記載されているのが、大きいものから ODE、COD、POD、LOD¹である。研究用というよりも、英語母語話者が、単語の綴りや意味を確認するために使用されるものである。

本稿で登場する辞書は最新版ではない。通常辞書に関するコメントは最新版を常とするが、それを避けたのは意図的である。編集方針の変更などによって、辞書の利用者にとってその改訂版が、旧版に対して必ずしも、改善されたとは思われない場合がよくある。いわば改悪である。また、十数年前と比べると、辞書の旧版を入手することは容易になった。古本街を一日中回ることなしに、家にいながらネットで購入することができるようになった。さらに、通常辞書利用者の大半が電子辞書を選択することもあり、中古の書籍版を廉価で入手可能になったので、本稿での旧版の辞書利用は、決して辞書マニアの勉強法ではないことを一言申し添えておきたい。例文検索など電子辞典でしか出来ないことは、電子辞典に任せ、本稿では昔ながらの一見、情報量の少ない書籍版辞書を最大限に活用し、そののちに公開されている電子コーパスや電子辞書に組み込まれている Cobuild の Wordbank や Oxford Sentence Dictionary で検索した例文を精読することで、より一層、対象の語のイメージを明確にしていくことが手順である。本稿では日常の読書で収集した例文や自作コーパスからの例文を提示しながら解説をしていく。

1. POD における actually の定義

簡潔な定義と核心を突いたような少数の例文を観察することから、まず第一歩を踏み出すことにする。

POD7版²における actually の定義をみてみよう。一般の英語学習者が利用している英和辞典の定義と比較すると物足りないと感じる人もいるだろうが、ところがこの簡潔さが売りなのである。小型の辞書だから持ち運びに負担がかからないという理由だけではない。

adv. really, for the time being, strange as it seems (he actually refused!)³

まず、品詞が「副詞」とかかれており、つぎの“really”が一般の言い換えの部分と分かる。つまり、どの意味に分類されるタイプのものなのかという類概念の提示である。そしてそれに続く、“for the time being, strange as it seems”が really との差別化を計る種差となる。

さて、この簡潔な定義と唯一の例文をどのように読み解いて、何を知り得るのか、実際にその過程を辿ってみよう。really をみた段階で、物事が起きていない架空の思考内容ではなく、実際の問題について主張しているのだと分かる。for the time being では、「当分、差

し当たり」等の意味を持っている。これは at the moment に似ている訳語であるが、そうではない。確かに、電子辞書の例文検索をすると the political party actually in office に類する例文が出ていて、これが訳語の「現に、現在」に相当するものであるが、ここに問題がある。決してこの「現に、現在」は currently だとか at present ではない。これらは、あくまでも類概念で提示された really から意味を捉えなければならないのである。

つまり、問題になっている事態が仮想か、現実かという視点で考えると possible (可能) というレベルにとどまらず、「実現」しており、また theoretical (理論上) だけでなく、「現実に」起きているということである。このように意味のコントラストを効かせながら actually の理解を深めることが必要である。さらにこの actual の対象は、時間軸で考えれば、past でも future でもない目の前に具現化しているものである。つまり、今現在という時間軸の側面そのものに焦点が当たっているのではなく、その「今現在」を背景として「現実世界に存在している」という部分を焦点化しているのである。

次の定義項の “strange as it seems” の部分を考察してみる。そもそも strange は見慣れない、馴染のない、説明のしようもない対象を記述する際の語である。このことが、事態に対して意外性を生み出したり、驚きを示したりすることになる。馴染のある事柄に対しては、意外性もなければ、驚きもしないことを考えれば、容易に推測できる意味のメカニズムである。

この actually に与えられた唯一の例文が “he actually refused!” であり、最後の感嘆符が見逃せないものである。つまり彼 (he) が断る (refuse) ことが予想されない時に、実際に (actually) に断ったのだ！という内容であり、この一文の背景まで読み取ることが可能なのである。いや、そのように読み取れなければ辞書を読んだことにはならない。

2. 実例

ここから実例に即して actually の意味を検討していく。まずは、actually の定義において核となる really の意味を直接体現している事例をみていこう。

2.1 「実際に」という原義

最初に、thick と漠然と表現し、actually の後に事実そのもの、つまり詳細な情報の提示がなされている。さらに情報が、actually と共に使用されると意外性の含意を伴うことになる。

(1) You'll notice that the tag is rather thick⁴ - actually, it's nine millimeters across.

(Michael Crichton, *The Lost World*)

(そのタグはかなり厚いものに気付くでしょう。なんてたって、9ミリもあるのですから)

次の事例では、心の中で語っているものの、実際には、声を出していない事例で、さらにその内容が引用符で表現されている。

(2) No one actually said aloud, “You trapped our son into marriage.”

(Sydney Sheldon, *If Tomorrow Comes*)

(誰も声に出してははっきりと実際には、言わなかった。「あなたがうちの息子を騙して結婚したんでしょ」)

(3) の英文では、形式が肯定文の語順ではあるものの、文末に疑問符があり、現実問題として強い疑いを表現している。

(3) “You actually believed in the fable of a machine that turns paper into genuine hundred-dollar bills?” “I tell you I saw with my own eyes—” Grangier stopped.

(Sydney Sheldon, *If Tomorrow Comes*)

(「紙を本物の100ドル札にする機械の作り話をまさか信じているのかい」「自分の目で見ただって・・・」とグレイジャーは言うのをやめた)

(4) では、何をしているのかと問われたので、「事実」を述べたまでである。あえて actually を付加することで、相手の想定している内容と事実の差を対照させる機能が働いている。

(4) She said, “What’re you doing?”

“Buying placemats, actually.”

“Where?”

“Crate and Barrel.”

(Michael Crichton, *Prey*)

(「何をやっているの」と彼女は言った。「プレイスマットを買っているところだよ、(意外と思うかもしれないが)」)

(5) は、文末の actually が補足的コメントとして機能していて、情報をより詳細に記述しているために文脈上、「強意」と感じる場合があるが、actually は強意詞ではない。

(5) We can do all this because the camera we put inside his vessels is smaller than a red blood cell. Quite a bit smaller, actually.

(Michael Crichton, *Prey*)

(これは我々には可能です。彼の容器の中に入れたカメラは赤血球よりも小さいんで。

ずっと小さいんです、実際に（信じられないかもしれないけど）

事実を客観的に述べることで、適切な表現に言い換えとなっている。

(6) “I don’t think she’ll care. She seemed rather upset, actually.”

(Christopher Golden, *Accursed GA2*)

(彼女が気遣うとは思えません。それどころかかなり狼狽したと思われました)

質問に対してのYes, it is.というショートアンサーの後、さらに丁寧な事実を開示している。意外性の actually から考えても聴者にとっての新情報である。

(7) KING: Is Roanoke the closest big city?

ESPOSITO: Yes, it is. We actually have a bureau in Blacksburg and I live here in Blacksburg. And it’s a really quiet, nice, friendly town.

(LARRY KING LIVE April 16, 2007)

(「ロアノークは密集した大都市ですか」「ええ、実は事務局をブラックバーグに持っています、わたしは住んでもいます。」)

2.2 派生義：意外性、ポライトネス、話題転換

2.2.1 意外性

アメリカでの殺しにわざわざ日本でやくざと契約したという事実に接すれば誰でも意外性を感じることになる。actually の多用も興味深いところである。

(1) But Connor is able to show that the youthful Mr. Arakawa is actually quite a bad boy in Osaka. He shows that the street-corner gangland shooting is actually a yakuza killing contracted in Japan to take place in America.

(Michael Crichton, *Rising Sun*)

(「でも、若き浅川氏が意外と思うかもしれないが、大阪で悪童だったことをコナンは明らかにできます。暗黒街の発砲は、実は、日本でやくざに殺しを契約し、アメリカで実行するんです」)

(2) の事例では、But が主張開始の標識であり、さらに actually により聴者にとっての新情報を示している。新情報は聴者においては想定されないため意外性を生じさせるのである。

(2) “I’ll write down my phone number for you,” Cole said, scribbling on a bar napkin.

“And your address?”

“Yeah, right. But actually, I’m going out of town for a few days.”

(Michael Crichton, *Rising Sun*)

(「私の電話番号を書いておくよ」とバーのナプキンに殴り書きしながらコールは言った。

「それと住所」「ああ、確かに。でも数日間街を離れるんです」)

(3) ではまず、actually とveryの連鎖に着目しよう。Very は good の程度を上げる強意であり、actually は “it was very good” という命題が真であり、事実であるというコメントとなる。この英文では、“slimy texture” という一見ネガティブな感覚が、意外にも、とても素晴らしいという評価なのだということを教えているところである。

(3) If you got past the slimy texture, it was actually very good.

(Michael Crichton, *Rising Sun*)

(もしねばねばした感じがあったなら、実は(驚くかもしれないが)それはとてもよかったですよ)

(4) では、氷が9種類も存在するという驚くべき事実に加えて、その多くが自然界には存在しないということが、想定外であるという印象を与えている。そして(5)の事例では、「ひとりだけど、ふたり」という禅問答のような表現を事実として述べ、そののち事情説明をして発言の修正を行っている。

(4) The reason for the lower density of ice can be attributed to the nature of bonding among its molecules, namely, hydrogen bonding. There are actually nine different kinds of ice, many of which do not occur in nature.

(Pustak Mahal, *ABC of Popular Misconceptions*)

(氷は水より軽い事実を述べ、その理由が分子結合の密度の問題だと説明し、その氷というものにも9種類もあるんだ、実際に、その多くは自然界にもないけど)

(5) “He’s requested a landing, sir.”

“What on earth for?” the captain demanded.

“He says he’s got one of our passengers. Two actually. A young lady and her chaperone. They missed the boarding.” (Nora Roberts, *Key03 – Key Of Valor*)

(「機長、着陸命令です」「いったいどうしたんだ」と機長は言った。「お客様の一人がいる

んだ。実は二人なんだけど。若いお嬢様とその付き人です。彼らが乗船し損ねたのです」)

(6) は、先の (2) の事例とは actually と but の生起順序が反対になっているが、実質的な効果は同じである。ここでは、actually で事実そのものを語り、主張の談話標識として機能する but で新情報を提示している。コットンだけど、普通じゃない、特別仕立てという想定される範囲を超えたものなので、情報の追加であり同時に一種の修正でもある。

(6) “And the outside of the ship, what’s it made of?”

“Fabric, stretched tight across the alumiron skeleton.”

“Fabric? That’s all?”

“Cotton actually. But it’s been specially treated so it’s waterproof and fireproof too.”

(Kenneth Oppel, *Airborn*)

(「船の外側は、何でできているの?」「布地さ、アルミニウムの骨格にピンと張っているのさ」「布地だって?それだけかい」「綿布だよ、実はね。ただ、特殊加工されていて、防水と防火になっているんだ」)

2.2.2 ポライトネス

actually が語用論的にポライトネスとして機能する仕掛けは、対話の相手と同じ視点に立って、心を寄り添わせて、同じ考えを有する仲間意識を示すポジティブポライトネス⁵が効果として出ているのである。

(1) の事例では、動いている部分と動かない部分があったので、聞き手の想定には、部分的なズレが生じていて、そのズレの指摘する際に緩衝材としての actually を使っている。

(1) “But now the computers were not functioning?”

“Yeah. Actually, the processor chips themselves were fine. But the memory chips had eroded. They’d literally turned to dust.” (Michael Crichton, *Prey*)

(「でも、その時、そのコンピュータは機能していませんでしたね」「ええ、実は、処理装置自体の方はちゃんとしていました。でも記憶装置がだめになっていました」)

(2) は Yes-no 疑問文に対して yes/no という極性を示さず、事実だけを丸ごと提示し、質問に対しては間接的な対応となっている。聞き手の予想を外す答えの衝撃を和らげる actually なので、これは一種のネガティブポライトネスの機能である。

(2) “But the ship’s course is essentially the same?”

“Well, it varies quite a lot, actually.” (Kenneth Oppel, *Airborn*)
[「しかし、船のコースは基本的に同じですか?」「えっと、実は、とてもいろいろあるんだ」]

(3) では、actually を使うことによって発話以前にそのような素晴らしい名前を想像していたという解釈と直前の “Suits you” に対して念を押すような効果を持つ。

(3) Q: No, what is your real name then?

N: Bernard.

Q: Suits you, actually. (BLACKADDERII)

[「いいえ、ところで本当の名前は」「バーナードです」「あなたにぴったりですね、本当に」]

(4) の事例では、相手にとっての不利益な内容の提示に対する緩衝材として、actually が使用されている。この actually によって、旦那さんに会えるものと私も考えたいのですが、実は不可能なんですという心を寄り添わせる効果のあるポライトネスになる。

(4) BA: Ah, and what exactly did you want of me?

LF: I wish to see my husband tonight.

BA: Ehe! Not really possible actually. (BLACKADDERII)

[「で、わたしに何をしてもらいたいの」「今夜、旦那に会いたいです」「ああ、それは本当には無理ですね、実は (意外かもしれないけど)」]

2.2.3 話題転換

そもそも actually が相手にとって意外性を感じるものであるならば、一番親和性の高い接続詞は but となり逆説的な内容のコメントを主張することになる。また、それまでの談話の流れから意図的に外れることも、聴者にとっては意外性からの派生的な現象で、新しい話題の導入、つまり話題転換の機能を果たす場合がときとしてある。

(1) の事例は、コメントを無視して、発言が始まるので、話題転換と解釈できる actually である。これは、唐突さを避ける機能もある。和訳の中に () で (意外と思うかもしれないが) と入れたことについて説明すると、視点が真偽のレベルではなく、突然の話題転換というものが、聞き手にとっては想定しにくいものなので、その心的な衝撃を緩和するための actually である。よって、根本はポライトネスと同じである。

- (1) Pointedly ignoring the comment, Vaughn turned to Troi and said, “Actually, Lieutenant, one of the reasons why I remembered your service record in particular was because you were the second human I came across serving on this ship who was married to a Betazoid.”

(Keith R. A. DeCandido, *Lost Era - 003 - The Art of the Impossible*)

(あからさまにそのコメントを無視して、ヴォーンはトロイの方を向いて言った。「ところで実は（意外と思うかもしれないが）中尉、とくにあなたに対するサービスを覚えていたのは、船上でベタゾイドと結婚するのを、わたしが偶然給仕することになった二人目の人間だからです」)

(2) の事例では、まず冒頭で、Maybe で相手に対して圧力を軽減する効果を促し、結果的に丁寧な依頼になっている。そして should がためらいがちな提案となるので、maybe と相俟ってポライトネスを出している。気まずい雰囲気の中、その雰囲気を打開するために話題転換として actually を使っている。

- (2) “Maybe we should actually have a date?” she suggested with a lopsided grin.

(Christopher Golden, *The Boys Are Back In Town*)

(それじゃ、デートでもする?) と彼女は顔をゆがめながら笑って言った)

3. 類語との比較対照

ここでは、actually に意味機能が類似した語句を考察して、actually の意味機能を明確にすることを目指す。ここで検討する in fact や as matter of fact は OED2版や COD10版の actually の定義項で使用されている語句でもある。

3.1 in fact

この in fact は、やはり字義通り fact ゆえに、事実としての客観的な情報の追加機能を有するものである。また、先行文脈に対して、否定の立場であろうが、肯定の立場であろうが、最終的に「事実」を強調したり、要約したりする。このような「事実」の明示性が in fact の核になる部分である。そもそも事実を強調し、主張すべき状況では、必然的にその発話は、聞き手にとって新情報である。

下線を引いたところを比較すると「長期間」という漠然とした表現を in fact を経由して14世紀という具体的な表現を導きだしている。

- (1) The law’s quite clear on that and has been for a long time. A lot of our law, in fact,

goes back to the English beginning with the fourteenth century.

(Arthur Hailey, *Hotel*)

(法律はその件に関して明記されているし、長い間そうになっている。我々の法律の多くは実際問題として14世紀にイギリスで始まった)

(2) の例文では、in fact の前後に着目すると hard to という表現を impossible to に変化させ、意味が強くなりすぎないように usually で情報追加している。より適切な表現を導いているのが、この in fact である。

(2) They're hard to solve — in fact, they're usually impossible to solve.

(Michael Crichton, *Jurassic Park*)

(それらを解くのは難しい、実際に不可能だ)

(3) の例文ではまず “I'm sorry,” Malcolm said, “but の部分に注意を向けなければならない。この I'm sorry [またはExcuse me], (but) …の表現は「依頼」や「許可」を表わすものである。発話の意図は but に後続する部分にあり、but の左側の部分は前置きになる。つまり唐突に物事を頼んだり、許可を求めたりするのを避けたいという意図が働いている。相手の立場への配慮を欠いた言い方は、他人の領域に土足で踏み込むようなものです。しかし、相手の領域に踏み込まざるを得ないときには、その衝撃を最小限にとどめるというのが人としての振る舞いで、これもネガティブポライトネスの一種である。さらに第二文型の補語に in fact が生起しているのがポイントとなる。つまり、主語の詳細な情報提示が補語の役割であるので、まさにその補語の節構造に in fact が生起しているために詳細な情報が期待できるのである。

(3) “I'm sorry,” Malcolm said, “but the point remains. What we call ‘nature’ is in fact a complex system of far greater subtlety than we are willing to accept...”

(Michael Crichton, *Jurassic Park*)

(「悪いけど、その問題は残ったままだ。我々が『ネイチャー』と呼んでいるのは、詳しく言えば、我々が信じている以上に格段に微妙で捉えがたいもので、複雑なシステムである」とマルコムは言った)

3.2 As a matter of fact の例文整理

As a matter of fact は新しい情報を付け加えたり、直前の情報の誤りを正したりするときに用いる。Actually という単語レベルと as a matter of fact という語句レベルの音声的な

重さの差異が意味の差異につながる。そのため、ときに非難 (reproachful) の響きがあり、主張が強くなるために、軽快さがないので、ポライトネス機能は生じない。

(1) において in fact の強意形に相当する as a matter of fact で “rich” に対して “have a bit of money” という新情報が追加されている。さらに注目すべきは強調の does の出現である。意味の強さを傍証する事例である。

(1) “Rich, of course.”

Jeff gave her a lazy smile. “As a matter of fact, I think she does have a bit of money.”

(Sydney Sheldon, *If Tomorrow Comes*)

(「言うまでもなく、金持ちさ」ジェフは物憂げな笑みを彼女にした。「実は、彼女はかなりのお金を持っているのさ」)

つぎも同じく強調の did であるが、否定・肯定を主張する強意のDOが出現している事例である。

(2) “I don’t suppose anybody’s come to see you way out there?”

“As a matter of fact,” Grant said, “somebody did come to see me.”

(Michael Crichton, *Jurassic Park*)

(「あなたは離れたところにいるので、誰も会いに来るとは思いません。」「ところが実は、私に会いに来る人だっているんです」)

(3) は as a matter of fact が文末で使用され、語順転倒が生じている。これによって、文末焦点からコントラストが生じ、結果として the adults が強調されることになる。

(3) “They can jump,” Wu said. “The babies can jump. So can the adults, as a matter of fact.”

(Michael Crichton, *Jurassic Park*)

(「彼らはジャンプできるんです」とウーは語った。「赤ん坊は出来るし、実は大人でもできるんです」)

3.3 応用

最後に、actually とその類義表現が混ざって使用されている事例を通して知見の整理を試みたい。

つぎの事例では、the word と actually は品詞が異なるとはいえ、対比構造になっており、

「噂」では耳にしているが、「実際は」どうなんだと核心に迫る問いを発している。そして、Miss Whitney に対して poor という主観的判断を下した根拠を in fact という談話標識をもって展開している。

- (1) The word spread rapidly throughout the ship, and passengers kept approaching Jeff to ask if the matches were actually going to take place. “Absolutely,” Jeff assured all who inquired. “It’s incredible. Poor Miss Whitney believes she can win. In fact, she’s betting on it.”

(Sydney Sheldon, *If Tomorrow Comes*)

(噂はすぐに船上を駆け巡り、乗客はジェフに近づき、その対戦は実際に行われるのかと頻繁に聞いていた。「絶対です」とジェフは質問してきた人全員に答えた。「信じられないよ。かわいそうに、ホイットニーは彼女が勝つと思っているんだよ。だから、それに賭けようとしているんだ」)

つぎの事例では、この場所を知っているか否かという二項対立の選択肢に対して、Yes, I do. と立場表明をして、in fact によってその根拠を開示している。さらに質問に対する質問返して、聴者にとって常識や前提を根本からひっくり返すような事実を組み込んだ発話を actually とともにしている。

- (2) The dolphin asked the monkey, “Do you know this place?”

The monkey replied, “Yes, I do. In fact, the king of the island is my best friend. Do you know that I am actually a prince?”

(*100-Moral-Stories-for-Kids*)

(イルカはサルに尋ねた。「君はこの場所を知っているの」サルは答えた。「ああ、知っているさ、もっと言えば、この島の王様と親友なんだ。意外と思うかもしれないが、僕が王子って知っているかい」)

最後の事例では、自分のファッションを「皿を飲み込んだ鳥のようだ」と酷評されて最新の流行を知らない相手に驚きながら事実を語り、さらにこれが最新の流行を取り入れたゆえに、非常に魅力的にみられているのだという現状に関して客観的に情報を追加することで応戦している。この応戦の最終兵器に as a matter of fact という事実の表明では一番重たいものを選択しているところにも注意を払う必要がある。

- (3) It’s the latest fashion actually and as a matter of fact it makes me look rather sexy!

(*BLACKADDERII*)

((君も知らないだろうけど) 最新ファッションなんです。だからこそ、私はセクシーに

見えるんですよ)

4. おわりに

当小論の意図は、記述が丁寧な学習用の英和辞典や英英辞典を批判することにあるのではなく、その与えられた貴重な情報を十二分に活かし切るには、辞書を読み込む方法が何よりも重要であることを主張するものである。そのためにも、信用に足る簡潔に書かれた英語辞典の読み込み方を提示し、その後、実際の英文でまず理解し、それから体得を目指す過程を示した次第である。一を知って十を知る作業は、語源の活用も重要であることはいうまでもないが、今回は辞書の定義の側面に絞って話を進めた。

Actually の核となる意味要素はまず、really で「実際に」というメッセージが基盤として存在する。これを元に、話者と聴者の間で驚きや意外性からに共感が生じ、日本語の接遇表現的なポライトネスが効果として出てくることを POD の定義や英語の事例を通して明らかにした。

¹ LOD における actually などの定義を参考までに載せておく。

actually: in act fact, really

really: in fact; I assure you; as expression of mind protest or surprise

in fact: in reality, really, indeed.

Oxford 系母語話者用の一番コンパクトの英語辞典が LOD である。定義の仕方で、これが POD をそのまま小型にしたものではないことも分かる。この3つの語とその語義で共通のものは really である。基本的概念上に actually の定義する際の類概念として定義項に組み込まれたものである。

² ここで POD の最新版である 11 版の actually の定義を見ている。

Actually adv. in reality

今度は、reality を同じ POD で引いてみると、“the state of things as they actually exist” とある。定義項の中に知りたい語が含まれてしまっている状態である。あまりに辞書の説明が少ないと理解するための出発点を確保できないので、定義項に言い換えの表現があったとしても、未知のものを理解するための手がかりがそこになければならない。

³ ちなみに、POD の初版 (1926) の定義では、in fact; for the time being; strange as it seems (he actually refused!) となっており、最初の in fact が変更されているだけで、使用されている例文も全く変わっていない所に、定義のこだわりを感じる。

⁴ 提示した英文における下線は、読みやすさを考慮して筆者が強調の意味で引いたものである。

⁵ ポライトネス理論に関しては、木内 (2016:92-100) に簡潔に述べているので、それを参照のこと。

辞典文献：

Concise Oxford Dictionary 2001¹⁰ Oxford: Clarendon Press

Little Oxford Dictionary 1986⁶ Oxford: Clarendon Press

Oxford English Dictionary, 1989². Oxford: Oxford University Press

Oxford Dictionary of English 2010³ Oxford: Oxford University Press

Pocket Oxford Dictionary 1926¹ Oxford: Clarendon Press

Pocket Oxford Dictionary 1984⁷ Oxford: Clarendon Press

Pocket Oxford Dictionary 2013¹¹ Oxford: Clarendon Press

A study of English usage: actually

KIUCHI, Osamu

This paper is organized in the following way: Section 0 addresses “the definition concerning the definition”. Section 1 describes the definition of *actually* of POD. Section 2 provides a detailed actual case study of the core meaning used in speaking to emphasize a fact and several derived meanings used to show surprise about the contrast or used to correct somebody in a polite way or used to introduce a new topic. In Section 3 we consider synonyms for *actually* such as *in fact* and *as a matter of fact*. Section 4 is concluding remarks.